

みどりのこだま



福島県会津農林事務所

会津坂下農業普及所

河沼郡会津坂下町見明字南原 8 8 1

金山普及所

大沼郡金山町大字川口字上町 6 5 6-1

電話 0 2 4 2 - 8 3 - 2 1 1 3

電話 0 2 4 1 - 5 4 - 2 8 0 1

湯川村 片桐豊司さん福島県農業賞を受賞!!

～第 5 4 回福島県農業賞～



写真：表彰式での片桐さん夫妻
左：片桐豊司さん
中央：佐藤雄平知事
右：片桐ゆり子さん

福島県農業賞は、農業経営の改善や集団活動に意欲的に取り組み、顕著な業績をあげている経営体や集団を表彰し、農業経営者の意識高揚及び本県農林業の振興と発展に資するとともに、県民の理解を深めること目的に実施しており、今年度で第 5 4 回となる歴史ある賞です。

片桐さんは、米どころ湯川村において稲作の傍ら、水稻育苗パイプハウスを利用した収益性の高いトマトの栽培を行っております。

特にトマト栽培においては、会津地域においていち早く導入された一本の苗を複数に枝分かれさせ効率的に収穫する「連続二段摘芯栽培」と呼ばれるトマトの栽培管理技術を導入し、地域平均を大きく上回る高い収量性と品質を確保しています。

また、平成 1 3 年より県指導農業士を務められ、地域の若い担い手の育成にも御尽力されております。さらに、JA 会津みどりの作業受委託部会長として、会津米の産地活性化に貢献されるとともに、湯川村の農事組合長連絡協議会や認定農業者会、水田農業推進協議会等の会長及び委員を歴任され、村の農業振興に大きく貢献されております。

今後とも、御自身の経営の更なる発展とともに、地域のリーダーとしての益々の活躍が期待されます。

第62回全国農業コンクールで有限会社グリーンファームが優秀賞を受賞！

7月18日に郡山市で開催された第62回全国農業コンクールに昭和村の有限会社グリーンファームが出席し、優秀賞を受賞しました。

全国農業コンクールは、将来の日本の農業に希望を与える先進的な取組を実践している農業生産者や団体を顕彰する場として、毎年開催されています。今回は56年ぶりの本県開催で、県内から有限会社グリーンファームを含め4団体が出場しました。

実績発表では、有限会社グリーンファーム代表取締役の酒井金三郎さんは、過疎・高齢化が進む昭和村での農地を守る取組を発表し、「今後も『豊かな大地を未来へつなぐ』の社訓のもと、昭和村における農業最後の守り手として、農地の保全に社員一丸となって取り組み、昭和村の農業振興に貢献して参りたい。」と述べられました。



優秀賞を受賞される酒井さん(右)

献穀米を献上した昭和村の本名昭司さんが知事を表敬訪問しました！

昨年11月、「新嘗祭」に生産した米を献上した昭和村の本名昭司さん、ミエ子さん夫妻が、12月18日に県庁を訪問し、宮中の祭事をつかさどる掌典長からの伝達書を受けました。伝達書には、献上した米が新嘗祭に供えられたことが記されており、佐藤知事から手渡されました。

本名さんは、祭事に先立ち、昨年10月24日に皇居で行われた新嘗祭献穀献納式に出席され、自らが収穫した新米を献納されています。

本名さんは佐藤知事に献穀田で収穫した米を贈り、御田植えから収穫に至るまでの苦労話などを報告していました。



写真：表敬訪問した本名さん夫妻

中央：本名昭司さん・ミエ子さん夫妻
左：佐藤雄平知事、右：馬場孝允昭和村村長

普及推進懇談会を開催

2月12日午後、平成25年度第2回会津坂下農業普及推進懇談会を開催しました。懇談会には各町村、農業協同組合、生産者の代表の方等に出席いただき、平成25年度普及指導活動の結果および平成26年普及指導活動計画の原案について検討をいただきました。26年度では、①担い手の持続的な経営発展に向けた支援、②収益性の高い地域農業の確立、③安全・安心を基本とした環境と共生する農業の推進、④地域の特色を生かした魅力ある農業と農村の振興、⑤東日本大震災からの復旧・復興及び原子力災害対策の取組を主要課題として取り上げ、活動の展開を計画しています。

農業施策が大きく動いている状況の中で、関係機関等でも将来の農業振興方策を模索している段階にあります。出席者からの意見でも、高齢化が進む中での水田農業の展開や園芸振興方策、特産品の振興や販売戦略、経営の法人化等、地域農業を展開していく中での課題が提示されました。これらの意見を踏まえ、地域に密着した活動を展開して参ります。



写真：普及推進懇談会の様子

生産調整(減反)の見直しに係る概要

平成26年度から農業・農村政策が下記のとおり変更になります。この見直しには、意欲ある生産者が需要に合わせた作物を選択・生産できる状況を実現していくという意図があります。皆さんの農業経営に役立つ取組を行なうと共に今後の経営内容についてもお考えいただきたいと思います。

詳細については、農林水産省HP (<http://www.maff.go.jp>) をご覧ください。

		平成25年 (2013年)	平成26年 (2014年)	平成30年 (2018年)	
生産調整	生産数量 目標配分	国から配分	国から配分 (29年度まで継続)	配分廃止 需給情報提供	
米の直接支払 交付金	主食用米	15,000 円/10a	7,500 円/10a (29年度まで継続)	廃止	
畑作物の直接 支払交付金 (ゲタ対策)	大豆・麦・なたね	2万円+数量払 ※1	2万円+数量払 ※1	農産物 収入保険を 検討	
	そば	2万円+数量払 ※1	1.3万円+数量払 ※1 (ただし、未検査品は対象外)		
水田活用の直接 支払交付金	戦 略 作 物	飼料用米 米粉用米	8万円/10a	標準8万円/10a (収量に応じ5.5~10.5万円)	26年度から 地域ごとに、水 田活用の取組 方針等を「水田 フル活用ビジョ ン」に記載する
		大豆・麦	3.5万円/10a	3.5万円/10a	
		加工用米	2万円/10a	2万円/10a	
		そば	2万円/10a	産地交付金で支援	

※1：出荷・販売数量がわかった段階で数量払の額を確定し、面積払の金額を差し引いた額を追加で交付します。

産地交付金（県域助成単価）

助成の種類		25年度助成単価	26年度助成単価
加工用米助成	単年度契約	20,000 円/10a	12,000 円/10a
	複数年契約		24,000 円/10a
飼料用米助成	一般品種	1,000 円/10a	10,000 円/10a
飼料用米・米粉用米助成	専用品種	(飼料用米)	12,000 円/10a
地力増進作物等助成		10,000 円/10a	10,000 円/10a
備蓄米助成		15,000 円/10a	7,500 円/10a
そば・なたね助成	基幹作	20,000 円/10a ※2	20,000 円/10a
	二毛作	15,000 円/10a ※2	15,000 円/10a

※2：25年産そば・なたねに対する助成は、水田活用の直接支払交付金です。

※：産地交付金については、上記の他に会津みどり地域地域農業再生協議会で設定した品目に対する助成もあります。

詳しくは普及所または各町村農林担当課にお問い合わせください。

ライマ豆（ペチャ豆）の出荷、販売の際の留意点について

ライマ豆（ペチャ豆）には、高濃度のシアン化合物※が含まれている場合があります、自主検査により、シアン化合物が検出されないことを確認したものしか生豆として販売することができません。県内では未検査品のまま販売されている事例もみられていることから、再度品種等を確認して下さい。

また、ライマ豆（ペチャ豆）は花豆によく似ていますが、花豆と比べて厚みが薄く、花豆にはない放射状の筋があること、模様も異なっていることなどが主な相違点です。

詳しくは、普及所までお問い合わせ下さい。

※シアン化合物（青酸カリなど）には、非常に強い毒性があり、一定量を摂取すると、めまいや嘔吐などを引き起こします。また、高濃度であれば、死に至ることがあります。

ライマ豆（ペチャ豆）



ペチャ豆、ライマビーンなどとも呼ばれます。花は普通白色で、莢は平たく、中に0.4～1.8グラムほどの豆が1～3個入っています。豆色は白色、赤褐色、褐色、黒色などがあります。

花豆



花豆は、インゲン属の中の「べにばないんげん」のことを言います。鮮赤色又は白色の大きな花をたくさん咲かせます。赤花の子実は紫の地に黒色の斑が入っていて紫花豆と呼ばれ、白花のものは子実も白色をしているところから白花豆と呼ばれます。

トマト黄化えそウイルス（TSWV）病が県内で発生しています!!



（写真左：キクの葉での症状、中央：トルコギキョウでの症状、右：トマトの葉での症状）

上の写真に似た疑わしい発病株は速やかに除去し、焼却するか土中に埋没させましょう！

施設開口部に1mm目防虫ネット（青や黄色以外）を張り、虫の侵入を防止しましょう！

アザミウマ類に対する薬剤防除を定期的に行ない、春・夏の生育期間や冬・春の育苗期間においても定期的な薬剤防除を行い、アザミウマ類の徹底防除を図って下さい！

本ウイルスはアザミウマ類をとおして、多くの植物へ伝染します。拡大を速やかに食い止めることが最も重要ですので、防除の徹底を図ると共に、家庭菜園や雑草等での類似症状があれば、速やかにお近くのJAや普及所へ連絡し確認を行うよう、皆様のご協力をお願い致します！